

「感謝」の現れの一つですね。大山氏、そうですね。日々感謝は欠かせません。我々陸運部は、荷物を荷主様からいただいた運送会社へ依頼することが仕事です。そこに「荷物を提供することが偉い」と褒めたいをする者がいます。が、全くそんな事はありません。周りの方々のおかげで我々の仕事が成り立っているのです。これは社内でも同じことが言えるのだと思います。

「感謝」という行動指針について。どのような考えをお持ちですか。廣田氏「常に感謝の気持ちを持つているか」と聞かれると、忘れていた時間のほうが多いかもしれないと思います。最も身近な事といえば、毎日家族に感謝をしているのか。誕生日や記念日には贈り物をするしはありますが、果たしてこれは正しい感謝なのか。思わず自問自答をしていました。家庭で感謝ができるのではありませんか。自分が感謝ができるのか考えさせられました。「もったいない」「感謝が足りないのではないのか」と自分を厳みめる機会になりました。

「感謝」という行動指針について。どのような考えをお持ちですか。廣田氏「常に感謝の気持ちを持つているか」と聞かれると、忘れていた時間のほうが多いかもしれないと思います。最も身近な事といえば、毎日家族に感謝をしているのか。誕生日や記念日には贈り物をするしはありますが、果たしてこれは正しい感謝なのか。思わず自問自答をしていました。家庭で感謝ができるのではありませんか。自分が感謝ができるのか考えさせられました。「もったいない」「感謝が足りないのではないのか」と自分を厳みめる機会になりました。

「感謝」という行動指針について。どのような考えをお持ちですか。廣田氏「常に感謝の気持ちを持つているか」と聞かれると、忘れていた時間のほうが多いかもしれないと思います。最も身近な事といえば、毎日家族に感謝をしているのか。誕生日や記念日には贈り物をするしはありますが、果たしてこれは正しい感謝なのか。思わず自問自答をしていました。家庭で感謝ができるのではありませんか。自分が感謝ができるのか考えさせられました。「もったいない」「感謝が足りないのではないのか」と自分を厳みめる機会になりました。

身近な感謝はあいつから
取締役・陸運部部长 大山征四郎

昨年にクレド推進チームが発足し、社内報を創刊。どのような印象をお持ちでしょうか。大山氏「クレド活動が本格化し、日常的にクレドに対する意識が高まりましたね。たとえば、あいつです。これはクレドチーム発足前から意識していた行動でしたがクレド活動によって「あいつ」をしているつもりになってはいないか「互いに気持ちの良いあいつ」を交わらせているのか」と改めて考えをきつかけになりました。

謙虚な気持ちで感謝の思いにつながる
代表取締役専務・梱包輸送部部长 廣田 定

「感謝」という行動指針について。どのような考えをお持ちですか。廣田氏「常に感謝の気持ちを持つているか」と聞かれると、忘れていた時間のほうが多いかもしれないと思います。最も身近な事といえば、毎日家族に感謝をしているのか。誕生日や記念日には贈り物をするしはありますが、果たしてこれは正しい感謝なのか。思わず自問自答をしていました。家庭で感謝ができるのではありませんか。自分が感謝ができるのか考えさせられました。「もったいない」「感謝が足りないのではないのか」と自分を厳みめる機会になりました。

福岡倉庫に携わる方たちに感謝している？

クレドを達成するための5つの行動指針。そのうちのひとつに「感謝」というキーワードがあります。今回は廣田定氏(代表取締役専務・梱包輸送部部长)と3月に退任される大山征四郎氏(取締役・陸運部部长)の2名にクレド推進チームの取り組みと効用、社内外への「感謝」について伺いました。(取材日:2019年12月25日)

先ずは身近な感謝からですね。クレド活動の印象はいかがですか。廣田氏「部門を超えて結束し、同じ課題に取り組んでいることに注目しています。会社でひとつになる活動は初めてです。からね。我々にはできなかったこと、情熱を持って取り組んでいるのは素晴らしい。抽象的な内容をいかに浸透させるかという努力を続ける姿には敬意を表しますね。」

「真面目な姿勢からクレド推進チームの活動をより理解できればと思います。私も冊ほど本を読みました。その中の1冊に「人間が生きてきたのは考える力」があったからだ」と書かれていて、妙に納得しましたね。社内報やホスターで日頃からクレドを目にして、書かれている言葉について少し考えるだけでも意識に大きな変化が生まれるでしょう。また、仕事柄か私は何事も利益追求の方へ考えが偏ってしまうようです。たしかに数字は大切ですが、その基本となる人材や協力会社、お客様の存在が何よりも大切なのだと改めて気づかされました。会社が存続できるのも彼等のおかげであり、謙虚な気持ちで感謝の思いに繋がることを忘れてはいけません。クレドは、ふと立ち止まって考える時間をくれました。

2020年の抱負を教えてください。廣田氏「毎年目標にしているのですが、基本に忠実な行動を意識して、組織としての基礎を固める事に努力していきます。クレドを通じて、正しい知識や正しい言動、正しい認識を一人ひとりがコツコツと積み上げていく。その繰り返しで社員が意識と心を変え、やがて全員が常識や品格が携わって同じ方向を向くことで、我々が目指す会社になると信じています。」

家庭で感謝ができているから分らない自分が会社で感謝ができるのか考えさせられました。
 廣田定

クレドを通じて会社全体のことを考えられるような社員が一人でも二人でも増えていけば自ずと感謝が生まれ、チーム力が強まる。



感謝

Thanks



福岡倉庫



2020年度クレド推進チーム
 陸運部・福岡営業所・所長の
 照本啓介をリーダーに2019年
 4月に発足したクレド推進チ
 ーム。今年度は新たなメンバ
 ーを加え、この15名で活動し
 ます。引き続き、ご協力のほど
 よろしくお願い致します。